

循環器科としては、2011年度も心臓血管外科が専門の佐々医師と庄野の二人体制で診療をすることができた。担当した入院患者数は296名であった。当院の地域の高齢化率は35%程度であるが、入院の例を見ると平均年齢79歳（中央値81歳）であり、65歳以上の高齢者が実に89%を占めていた。90歳以上の例も45例15%と多くなった。高齢者が多いこともあり死亡例は31例（CPAOA回復例を含む）であった。

入院の内訳は、心不全が最も多く74例と増加した。一方、狭心症での入院は14例と少なかった。急性冠症候群の多くは済生会熊本病院へ急性期治療のために搬送しているためと考えられる。不整脈16例、血管疾患14例、弁膜症10例、意識消失発作を含む血圧関連10例、などであった。

急性心筋梗塞は18例（CPAOA4例を除く）であり、うち15例を熊本病院に搬送して急性期治療を行った。タコツボ心筋障害も2例あった。急性大動脈解離は8例とやや多くなっていた。

(例)

急性心筋梗塞（転送例を含む）	18
急性大動脈解離（転送を含む）	8
心不全	74
不整脈	16
狭心症	14
血管疾患	14
弁膜症	10

循環器疾患以外では、肺炎などの呼吸器疾患29例、尿路感染症などの腎関連疾患20例、糖尿病などの代謝疾患15例などの疾患をカバーした。これらの疾患は、内科系（呼吸器、一般内科）の医師増加に伴い減少している。

一方、外来診療では毎月約900～1000人の患者の診療を行った。地域の医師の減少が進み、生活習慣病コントロールの患者が年々増加し、通院例の約1/4が糖尿病を合併している状況となった。

循環器関連の検査はほぼ例年並みであった。

(例)

	2010	2011
心エコー	1,625	1,770
負荷エコー	36	34
トレッドミル	86	69
ホルター	136	123
頸部血管エコー	261	265
下肢血管エコー	277	236
ABI	286	229
心臓CT	21	16
血管CT&,MRI	127	130

当院での治療が困難な疾患については、主に熊本病院と連携して治療を行っており、この1年間には、急性心筋梗塞の15例をはじめ、狭心症20例、弁膜症手術10例、血管疾患手術11例、粘液腫1例、冠動脈バイパス術1例、ペースメーカー植え込み8例、再同期療法3例、など多くの症例の連携治療を行うことができた。

